

授業科目名	老年看護学実習 (2300405)		
時間割名	老年看護学実習 (70225)		
時間割担当	吉村雅世		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

本実習の目的は介護保険施設に入所している老年期にある対象者の発達段階および全身に及ぶ老化の特徴や健康障害、生活機能の問題を把握し、適切な看護を提供できる能力を養うことである。そのために、1人の入所者を受け持ち、看護過程を展開し、その人らしい健やかな生活を守る看護を実践する。また、施設のさまざまなサービス活動を通して、保健・医療・福祉の連携やその中で看護の役割を理解する。

学習の到達目標

1. 施設に入所・通所する高齢者を全人的に理解できる。
2. 施設に入所する高齢者の看護過程が展開できる。
3. 対象者および家族に関わる保健、医療、福祉の実際と看護の機能について理解することができる。
4. 看護学生として適切な態度、姿勢で実習に臨むことができる。

授業方法・形式

1. 臨地実習

授業計画

1. 2週間の臨地実習
2. デイサービスフロア、療養フロア等を実習の場とする
3. 詳細は老年看護学実習要項で示す

成績評価の基準

1. 5分の4の以上の出席をもって評価を行う
2. 自己評価内容と同じ評価項目を基に、実習への取り組み、記録物や提出状況、臨地指導者の意見等を含め総合的に評価する。

授業時間外の課題

学習のノート（ファイルでも可）を作成し、学習した内容をまとめていく内容

1. 高齢者とのコミュニケーション技術
2. 高齢者に多い疾病 介護特定疾病の16項目
3. 高齢者に多い症状・徴候 老年症候群
4. 実習施設のある地域の性質 高齢化率 アセスメントするため情報 産業・福祉制度等者の社会的、文化的情報
5. 高齢者が入院・入所、あるいは利用する施設の概要
療養病床 療養病棟 介護老人保健施設(介護保険で運用される施設)等
設置主体、設置目的 看護職員の配置 利用者の特徴 勤務する職員の職種 看護の役割 生活スペース 一般の病床との違い 等
6. その他復讐の必要な内容
基礎看護技術 フィジカルアセスメント、生活援助技術
専門基礎科目 人体機能学、人体構造学、病理学、薬理学 等

メッセージ

実習に当たっては、誰にも快く笑顔で挨拶する。看護実践に当たっては指導者とコミュニケーションを密にし、報告、連絡、相談を欠かさない。学習面では、学んだ知識をしっかりと活用し実践に活かす。老年看護学概論、老年看護学援助論で学んだことを基に、高齢者個々の個性・特徴を踏まえた看護が展開できるように努力してほしい。

教材・教科書

参考書

- 「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
- 「ナーシンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践」メディカ出版
- 「看護実践学老年看護学」ピラールプレス
- 「QOLを高める専門看護・介護を考える」中央法規